

《薬局サーベイランスコメント》

『第 47 週（11 月 20 日～26 日）よりインフルエンザの全国的な流行が開始、
流行は今後更に拡大していくことが予想される』

2016 年 11 月 28 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/kanjyasuikei/index.html>）によると、今シーズン（2017/2018 年シーズン）の 2017 年第 47 週（11 月 20～26 日）のインフルエンザの推定患者数は 37,691 であり、前週（第 46 週）の値（22,086）よりも大幅に増加し、薬局サーベイランスにおける全国的な流行開始の基準値（30,000）を上回りました。昨シーズンに続いて、例年よりも早く 11 月中に基準値を超えています（図 1）。また、休日明けの月曜日（11 月 27 日）の推定患者数は 12,626 と今シーズンの 1 日当りの最多数を更新しており、第 48 週以降もインフルエンザの患者数更に増加していくものと予想されます。

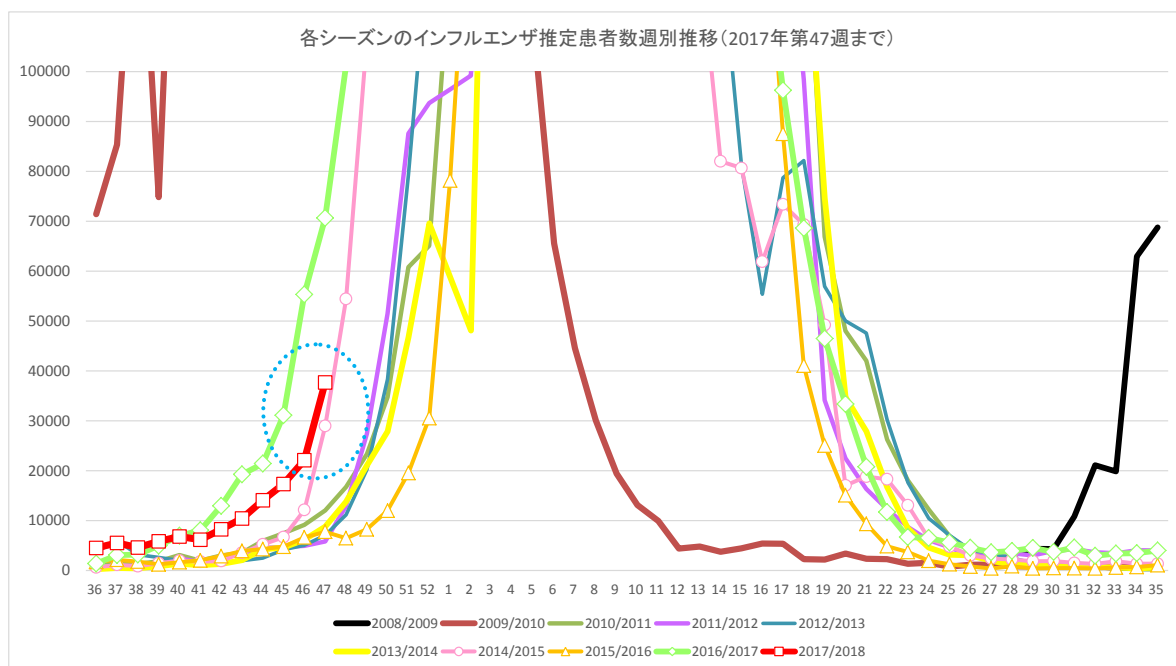


図 1. 過去 7 シーズンと今シーズン（2017/2018 年シーズン）の第 36～第 47 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第 47 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると福井県、石川県、北海道、沖縄県、栃木県、宮崎県、長崎県、大分県、広島県の順となっていま

す。

2017年第36週から第47週までの累積の推定患者数は143,278であり、年齢群別では5～9歳（19.8%）、0～4歳（13.0%）、40～49歳（12.3%）、30～39歳（12.0%）、10～14歳（11.9%）となっています（図2）。

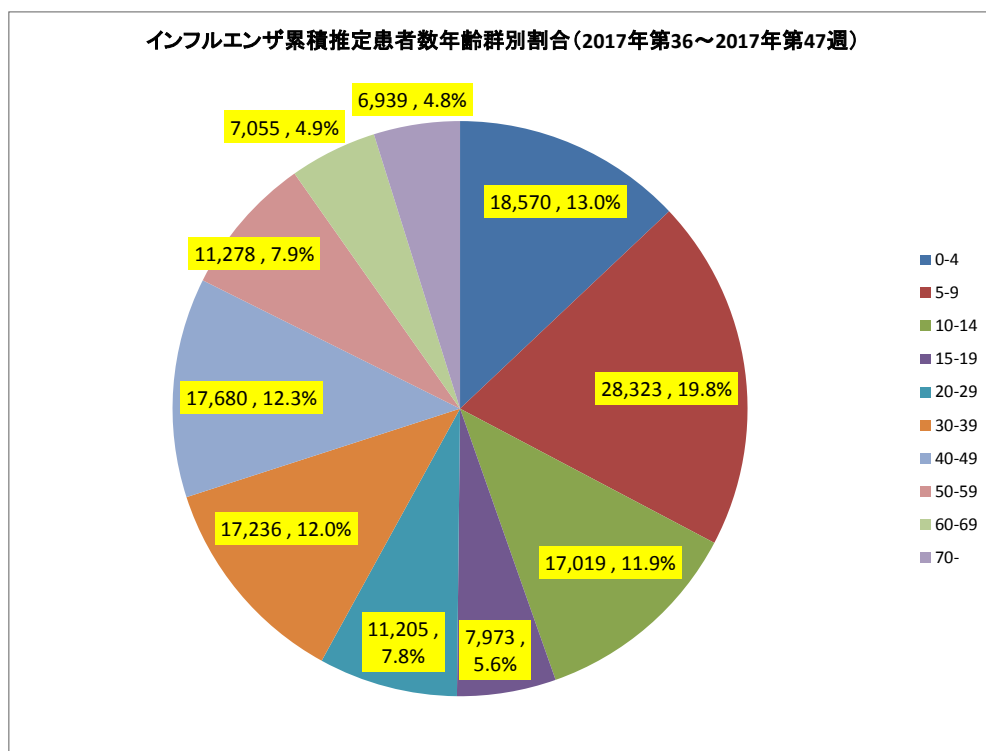


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2017年第36～2017年第45週、累積推定患者数=143,278）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（243検体解析）は、A/H1pdm 40.7%、A/H3（A香港）亜型が34.6%、B型24.7%の順となっていて、今シーズン初めてA/H1pdmがA/H3の検出数を上回っています（図3）。

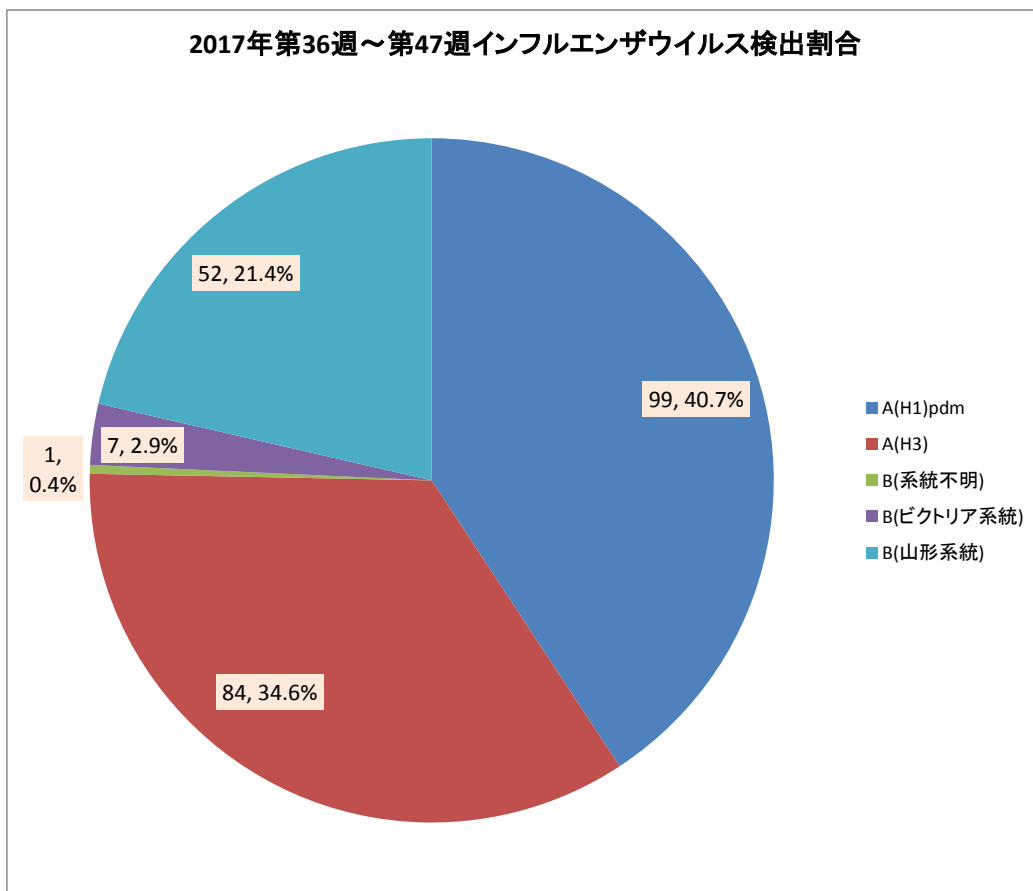


図 3. 2016 年第 36～2016 年第 47 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=243)

昨シーズンに続いて今シーズンも 11 月中にインフルエンザの全国的な流行が始まり、今後更に拡大していくことが予想されます。インフルエンザの患者発生状況には充分にご注意ください。